

私を担当してくださった 素晴らしきケアマネさん 〜その1〜



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット
「デイサービスけやき通り」代表取締役

先日、私が8年前の要介護時代に、担当をくださったケアマネさん（写真右）が、わが家に来てくださいました。この連載を執筆するために、インタビューしたいと電話したら、わざわざ自宅まで来ていただけたとのこと。

不良少年（私のこと）が同窓会で恩師の先生（ケアマネさんです）に会って照れるような気持ちで、いろいろと話しました。その柔らかい話し声を聞き、所作の美しさを感じ、あらためて「この方に担当していただいて本当に良かった」と感じました。今回から3回にわたって、そんな昔話や今の気持ちを書きます。なお、以下のセリフ等はすべてご本人の了解を得ており、かつ分かりやすく読めるよう補足しています。



初めての出会いは デイへの抗議中

初めての出会いはデイサービスの場でした。私が要支援から要介護に変わり、新しいケアマネさんは、市の地域包括支援センターから紹介され、当時デイサービスにいた私にあいさつに行こうと思ったそうです。

「あのとき私、場違いだったかな…、この場所に来てよかったのかな…と思いました」

そのとき私はデイの人と真剣に話し合いしていたのだそうです。あまりよく覚えていないのですが、多分リハビリのやり方の注文か、生活相談員へのク

レームか何かだったのでしょう。そういったことはときどきありましたので…。それでケアマネさんは「場違いかもしれない。でもこれから担当することになるのなら、そばで聴かせてもらおう」と思ったのだそうです。

私の第一印象は？

「その、なんて言うか、何でも話せる間柄にはなれないのかな、と思いました。デイの方と深刻なお話をされていたみたいでした。これは大変だなと思いました。そう、正直に思いましたね」

そうだったのですね…。そんなことはつゆ知らず、今思うと恥ずかしい限りです。しかし、そのような状況で「そばで聴かせていただく」と、無理に割って入らず、逆に帰りもせず、「そばで聴く」行動を取ってくださったことに、とても感謝しています。

読者のケアマネジャーさんも、経験はあるかもしれませんが、ケアマネさんの仕事って、この要介護者のストレスを受けとめつつ、心配と心配りと判断を常にしながら、立ち振る舞うことになるのでしょう。それにしても今知ると、本当に申し訳ないような心境です。

その後、そのケアマネさんが私の家に来てくださいました。話してみれば、実際の本人（私のこと）は楽しい性格で安心したそうです。「だから、良い方向に行くようにと思って、一生懸命に仕事しました」とのこと。「良い方向」という考え方をするのはですね。こういった方がいてくれて、今、私が社会人として復帰できていると思いました。

葉山 靖明 はやま やすあき
1965年福岡県生まれの50歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

ケアマネさんと私の車と記念撮影。8年ぶりの再会は、幸せな時間でした



支援の中心に「私の信念」

当時42歳の私は、当然ながら2号適用であり、ケアマネさんはいろいろな面で大変だったと思います。何が大変でしたか？との問いに、

「ん～、やはり、こう信念を持ってらっしゃって、病院でのご経験からリハビリに対して知識が深かったですね。特に作業療法士さんに対してものすごく信頼を置いておられましたよね。だから、自分の考え方と違うやり方をされると、デイとかで意見が違ってしまうのかと…」

2つ目のデイサービスで、私は2時間の大げんかをしたのです。理学療法のやり方と接客態度の劣悪さに社会的な怒りを感じて、大声で長時間にわたって現状の不満や現況の不理解や

リハビリと生活の遠い関係をも施設長に激しく伝えました。私は「こんなデイがあるなら、俺がデイを作った方がまだマシだ!」と本当に叫びました。後になって思えば、ここが私のデイサービス経営者としての第二の人生のスタートでした。そういった意味では、皮肉にも、その施設に感謝しています。

「それはしょうがないと思いました。やっぱり、すべてに合わせるんじゃなくて、葉山さんは葉山さんの考えがおありになったから」「どこかで衝突するところもあると思って。でも協力してもらえ人にはものすごく協力してもらえていたということですよ」

“信念”。

「何が大変か」との質問に、まずこ

の言葉が出てきました。動作や言葉や、ましてや介護保険のプランではなく、私の“信念”。私がこの世に生まれ、生きてきて、42年間の塊のような“信念”について、このケアマネさんはまず語ってくださったのです。最高のケアマネさんに出会えたような気がします。

私の、落ちた機能ではなく、生活ではなく、仕事ではなく、私の、精神の中枢にあって、プライドにもなり得るような精神である“信念”を大切にもらっていたのです。私自身がそういったケアを、ケアマネさんから受けていたのです。

やはり、私は幸せな男です。

(次号へと続く)

今月の私



夜にはロッジに帰って、ワニ肉やカンガルー肉で娘とBBQ！ここで私の実践的リハビリの成果が表れ、最高にうまく焼けたし、最高にうまかったです！ワニ肉などは脂身がなく、私の体重は微増でしたが、体脂肪率は下がっていました。ワニダイエット、お勧めです!!



29年ぶりのオーストラリア

11 日間のオーストラリア再訪の目的は、①カーティン大学作業療法学科での講義、そして、②長女との二人旅でした。旅の前半は講義、後半は娘とのオーストラリア横断の旅。エアーズロックでは地平線を眺め、夕日に照らされるいとと表情を変える山肌に娘と感動し、シャンパンで乾杯!